

香取遺産

Vol.101

圓生涯学習課

☎(50)1224

まぎのおおきか
牧野大坂遺跡
近世の塚の地鎮跡



▲地鎮に使用された遺物

牧野大坂遺跡は、牧野字大坂に所在します。観福寺の西約0・8km、標高約35mの台地にあります。都市計画道路の建設に伴い、平成23年に発掘調査を実施しました。

遺跡のある台地上は、平らな地形でしたが、これは近代以降の土木工事で発生した残土を盛り上げたためによることがわかりました。この残土を取り除くと、今まで知られていなかった塚が姿を現しました。円形のもものが2基、方形のもものが1基です。県道を挟んで東側にある源治社の境内に所在する塚群と一連のものと思われる。

この内の1基から、築造する際の地鎮に使用された遺物が出土しました。この塚は直径約5mの円形で、高さは約1mと低いのですが、南へやや傾斜する位置にあるため、実際よりも大きくみえるように築かれています。

調査は、塚の盛土の状況を観察するため、十字に土手を

残して掘り進めました。盛土からは埋納品などの遺物は出土しませんでした。しかし、塚を築造するために整地をした面から、素焼きの皿5枚と銅銭12枚がまとまって出土しました。

素焼きの皿は、口径約12cmで、ほぼ同じ大きさです。約30cm四方の範囲に、中央に1枚、東西南北に各1枚ずつ整然と置かれていました。

銅銭は、北に置かれた皿の周辺に集中していました。6枚は江戸幕府により寛永13年(1636)に鑄造が開始された「寛永通寶」です。残る6枚は、今の中国である北宋で995年に鑄造が開始された「至道元寶」で、中世に日本に輸入された銅銭です。

市内で発掘調査によって明らかになった塚の地鎮跡の貴重な事例です。

塚の築造と地鎮には、地理的な位置関係から、観福寺の関与も考えられるでしょうか。